

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	病態治療Ⅲ 骨筋肉		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1学年		学期及び曜時限	前期	教室名	203,202
担 当 教 員	高樋 康一郎	実務経験と その関連資格	大阪大学、刀根山病院を始め整形外科医として臨床経験24年			
《科目目標》						
外因性、内因性(非外傷性)の運動器疾患について理解する						
《成績評価の方法と基準》						
【評価方法】終講試験100% 【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ナーシンググラフィカEX 疾病と看護⑦運動器(メディカ出版)						
《授業外における学習方法》						
指定した教科書を事前に読んでおくこと						
《履修に当たっての留意点》						
運動のしくみで学んだ正常な筋骨格の構造と機能や運動機能を基に、そこから逸脱した状態が起こるメカニズム、検査、治療について学ぶ。本科目では臨床で経験することの多い疾患を重点的に学ぶ。学習した内容は各看護学で対象の状態を判断し看護を提供する根拠につながる。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動機能障害の症状と検査			
		各コマにおける授業予定	主な検査と判定基準 主な症状(疼痛、腫脹、変形、しびれ、麻痺、異常歩行、可動域制限、筋力低下、筋萎縮)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動器疾患の主な治療・処置			
		各コマにおける授業予定	安静、薬物療法、装具療法、矯正法・整復法、けん引法、固定法、手術療法、リハビリテーション			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨格系の運動機能とその障害			
		各コマにおける授業予定	骨折、骨の腫瘍			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊椎の運動機能とその障害			
		各コマにおける授業予定	脊髄損傷(脊椎圧迫骨折) 脊椎変性疾患(頸椎症性脊椎症・後縦靱帯骨化症・椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節の運動機能とその障害			
		各コマにおける授業予定	関節リウマチ 変形性関節症			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋肉の腫瘍・変性や神経に由来する運動機能障害		
		各コマにおける授業予定	筋疾患(筋ジストロフィー・多発性筋炎) 神経筋接合部疾患(重症筋無力症) 神経変性疾患(ALS) 末梢神経障害(ギランバレー症候群、ニューロパチー)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨・軟部組織の運動機能障害		
		各コマにおける授業予定	スポーツ障害(靱帯損傷。半月板損傷・脱臼・捻挫・肉離れ) 小児(先天性内反足・二分脊椎症) 加齢(サルコペニア・フレイル・骨粗しょう症)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	まとめ		
		各コマにおける授業予定	まとめ＋終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			